

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新横浜PJ	階数	地上9F
建設地	神奈川県横浜市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	736 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,085 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年2月 竣工	評価の実施日	2024年1月30日
敷地面積	1,212 m ²	作成者	織田 浩司
建築面積	967 m ²	確認日	2024年1月31日
延床面積	8,243 m ²	確認者	織田 浩司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.8

31

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%

②建築物の取組み 62%

③上記+②以外の 62%

④上記+ 62%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健) 2.4

4(教育) 2.3

5(ジェンダー) 2.3

6(水・衛生) 2.1

7(エネルギー) 2.2

8(経済・雇用) 2.2

9(イノベーション) 1.6

11(都市) 2.0

12(生産・消費) 2.3

13(気候変動) 2.2

15(陸上資源) 1.6

17(実施手段) 2.2

1 2 3

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア = 3.3		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.0	Q2のスコア = 3.4	Q3のスコア = 3.4
音環境	機能性	生物環境
温熱環境	耐用性	まちなみ
光・視環境	対応性	地域性・
空気質環境		
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア = 3.7		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.1	LR2のスコア = 3.3	LR3のスコア = 3.6
建物外皮の	水資源	地球温暖化
自然エネ	非再生材料の 使用削減	地域環境
設備システ	汚染物質 回避	周辺環境
効率的		

3 設計上の配慮事項		
総合		
市街地環境設計制度における公開空地や周辺景観へ配慮した外装デザイン、緑化等を計画する。		
その他		
0		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
システム天井照明器具による全館照明方式で平均照度533lxである。	事務所部分: 階高4.2m、1階テナント部分: 階高4.9m	2層吹き抜けのピロティ下の公開空地に樹木などの植栽を植えて良好な景観を形成している。樹木の下にベンチを設置して天井高のある快適な空間を提供している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.82 BEI=0.48 (標準入力法入力支援ツール(平成28年省エネ基準)による計算結果)	節水型便器の採用	燃焼機器の使用を回避し屋根面の緑化を行うなど、敷地外への熱的影響を低減する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)新横浜PJ

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境					0.40		-	3.0
1 音環境				3.7	0.15		-	3.7
1.1 室内騒音レベル		騒音レベル45dB以下(NC40以下)		4.0	0.40		-	
1.2 遮音				3.4	0.40		-	
1 開口部遮音性能		開口部:T-2以上		5.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		-		1.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-		-	
1.3 吸音		床:カーペット、天井:ロックウール吸音板		4.0	0.20		-	
2 温熱環境				2.7	0.35		-	2.7
2.1 室温制御				3.6	0.50		-	
1 室温		冬期22℃、夏期26℃		3.0	0.38		-	
2 外皮性能		窓システムSC:0.45、外皮性能U=0.8程度		4.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性		50㎡前後の空調ゾーニングで冷暖房が自由に選択可能(冷暖同時)の空調システム		4.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		外気処理で加湿機能を有し、一般的な湿度を実現		3.0	0.20		-	
2.3 空調方式		天井隠蔽ダクト型		1.0	0.30		-	
3 光・視環境				2.7	0.25		-	2.7
3.1 屋光利用				1.8	0.30		-	
1 屋光率		-		1.0	0.60		-	
2 方位別開口		-		-	-		-	
3 屋光利用設備		-		3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-	
1 屋光制御		ブラインドによりグレアを制御		3.0	1.00		-	
3.3 照度		全館照明方式で、平均照度533lx(最大662lx)		4.0	0.15		-	
3.4 照明制御		4作業単位で照明制御が可能		3.0	0.25		-	
4 空気環境				3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		天井裏含む内装工事に使用する材料は全てF☆☆☆☆		4.0	1.00		-	
4.2 換気				3.6	0.30		-	
1 換気量		建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量(1.0倍)		3.0	0.33		-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積は居室の1/50以上		3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		給気口と排気口は異なる方位、かつ6m以上隔離(周囲に污染源なし)		5.0	0.33		-	
4.3 運用管理				2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		-		1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		喫煙室の設置あり		3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	3.4
1 機能性				3.1	0.40		-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40		-	
1 広さ・収納性		執務スペース6㎡以上		3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		-		1.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画		建築物移動円滑化基準の最低限のレベルを満たしている		4.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30		-	
1 広さ感・景観		事務所の天井高2.8mとし、三方に窓を設置		4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		-		2.0	0.33		-	
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画を事前に検証		4.0	0.33		-	
1.3 維持管理				3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い壁床材の採用、維持管理方法の同じ床材の採用、風除室の扉に距離を確保、外部に面するサッシには水切を設置、外部に露出する部材に防錆対策、壁掛け式便器の採用		4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		評価対象室フロアには掃除用流しあり、清掃作業用電源を適した間隔に設置、丸環の設置、点検口は600×600サイズを確保、PS・EPSで維持管理作業可能		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30		-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		基準法に定められた25%を超える耐震性を確保		4.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		押出成形セメント板塗装(15年)		2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット(20年)、内壁:ビニールクロス(10年)		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにガルバリウムダクトを採用		5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にB種使用、Eは不使用		5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		空冷パッケージ型空調機(15年)		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				3.2	0.20		-	
1 空調・換気設備		中央式空調換気設備を持たない		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具を採用、非常汚水槽あり、受水槽に蛇口設置		4.0	0.20		-	
3 電気設備		非常用発電設備設置、UPS設置、地下空間への設置なし		4.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスB		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		地下空間への設置なし		2.0	0.20		-	

3	対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
		1 階高のゆとり	事務所の階高を4.2mとし、ゆとりをもたせる計画	5.0	0.60	-	-	
		2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率を0.15に抑え、プランニングの自由度を高める	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	積載荷重: 4,000N/m ²	4.0	0.30	-	-		
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
		1 空調配管の更新性	中央式空調設備をもたない	3.0	0.20	-	-	
		2 給排水管の更新性	縦管主管(PS内)、横引管(下天井内配管)	3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	構造・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
		4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
		5 設備機器の更新性	—	1.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	3.4	
1 生物環境の保全と創出	地上部・屋上部に緑化を行い、生物環境の保全に配慮しながら利用者が自然に親しめる環境とする	4.0	0.30	-	-	4.0		
2 まちなみ・景観への配慮	緑化を施し、壁面のセットバックや外壁の色彩への配慮により隣地建物ならびにまちなみとの調和をはかる	3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5		
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	公開空地を設け地域の活動上のアメニティ向上に寄与、敷地境界は見通しの良いフェンスを設置し防犯性に配慮	3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上	可能な限りの緑化、排熱設備設置場所に配慮	4.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	4.1	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.82	4.8	0.20	-	-	4.8		
2 自然エネルギー利用	—	3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	BEI=0.48	5.0	0.50	-	-	5.0		
4 効率的運用		2.0	0.20	-	-	2.0		
	集合住宅以外の評価	2.0	1.00	-	-			
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-			
	4.2 運用管理体制	—	1.0	0.50	-			
	集合住宅の評価	—	-	-	-			
	4.1 モニタリング	—	-	-	-			
	4.2 運用管理体制	—	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.3	
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4		
	1.1 節水	水栓類: 自動水栓、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-		
		1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-		
		2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60	-	-	3.3		
	2.1 材料使用量の削減	主要構造躯体[鉄骨]の基準強度F=325	3.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床仕上材に特定調達品目・エコマーク商品各1品目採用	4.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアを採用	4.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法対象物質を含有しない材料を使用(床: 接着剤)	4.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-		
		1 消火剤	機械式駐車場はハロゲン化物消火剤を利用	2.0	0.33	-		-
		2 発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム2種	4.0	0.33	-		-
		3 冷媒	ODP=0の冷媒を使用	3.0	0.33	-		-
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.6	
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO ₂ 排出率62%	4.5	0.33	-	-	4.5	
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3	
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器不使用	5.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善	気象データの把握、熱損失の防止、気象上昇の抑制	3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-		
		1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-		-
		2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-		-
		3 交通負荷抑制	荷捌き用車両の駐車エリア確保、導入路の位置等配慮	3.0	0.25	-		-
		4 廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-		-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-		3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-		
		1 騒音	横浜市の規制基準達成(昼間: 65dB以下、夜間: 50dB以下)	3.0	1.00	-		-
		2 振動	規制対象外建築物	-	-	-		-
	3 悪臭	規制対象建築物(横浜市の市街化区域)だが、特定悪臭物質の取り扱いがないため評価対象外	-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-		
		1 風害の抑制	風害対策に対する要請なし	3.0	0.70	-		-
		2 砂塵の抑制	—	-	-	-		-
	3.3 光害の抑制		3.0	0.30	-	-		
		1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	—	3.0	0.20	-		-
		2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.70	-		-
			3.0	0.30	-	-		

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

(仮称)新横浜PJ

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	-	○	○		○	-		-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0		○	○	-	-	○	○	○	○	-	○		○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0		-	1.0	3.0	2.0	2.0	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		-	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	-	-	3.0	2.0	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	-	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η) 0.4						
U値(W/m2K)	窓システム	1.8	屋根	0.5	外壁	0.8	床	0.7
住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値	-	η AC	-	η AH	-
屋光率	0.6%							
自然換気有効開口面積率	2.9%							

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	7.9㎡/人	病床	0㎡/床	シングル	0㎡ ツイン	0㎡
--------	--------	----	------	------	--------	----

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	0.0 VA/㎡
---------	----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	2.8 m
-----	-------

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	25 年
--------	------

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	15 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	10 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	15 年
--------	------

3.1.1 階高のゆとり

階高	4.2 m
----	-------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	15.0%
-------	-------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	4000 N/m2
-----	-----------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	39%	建物緑化指数	12%
--------	-----	--------	-----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	49%	水平投影面積率	41%	地表面対策面積率	26%	舗装面積率	17%
-----	-----	---------	-----	----------	-----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.82	断熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	4.8%	採光を満たす住戸数	80.0%
--------------	---------	-----------	------	-----------	-------

通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%
-----------	-------	-----------	-------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	0.48	住宅	-	太陽光	0kW	太陽熱等	0kW	蓄電池	0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	-----	------	-----	-----	-----

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	ビニル系床材	エコマーク商品	ビニル床材(類型 窓枠体指定の特定品目等)	-
--------	--------	---------	-----------------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
---------------	---	--------------	---

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	
---------------	---	--------------	--

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		101% 隣棟間隔指標Rw 0.11																	
地表面対策面積率		47.0%		屋根面対策面積率		25.0%		外壁面対策面積率		0.0%									
見付面積Sb		1.279㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		43.71 m		基準高さHb		28.98 m									
緑地		125㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	